



思いは今の児童たちへ受け継がれた。児童たちは「助産師、自動車整備士、お父さんみたいな漁師になりたい」等、未来の夢をつづった手紙を再び灯台へ封入した。また、サミット実行委員会が村民歌を斉唱し、昼食会では、海上保安庁音楽隊の演奏で会場が彩られた。

プラザホテルむつでは「灯台ワールドサミットin東通記念式典」を開催。式典内では、公開討論が開催され、灯台専門誌編集長の不動 まゆう氏を進行役に迎え、元尻屋埼灯台職員や斗南藩の子孫、東通村商工会長が灯台の歴史と未来を語り合った。海を照らしてきた灯台は、これから人と地域を照らす「灯台2.0」へ。観光や文化、交流の拠点として新たな価値を生み出して行く。